

---

「新約のきよめ」

## 第5章 新生と全き聖化

# 新生はきよめの始まり

罪赦されて神の子となる時、たましいの内面には、必ず新しい霊的生命、新しい性質が与えられる。

それは聖霊によって吹き込まれる新しい天的生命。  
罪を愛する心は滅ぼされ、神を愛する愛が与えられる。

新生は、きよめの始まりである。

それは神の子となったすべての人の胚芽の中に見出される。  
しかしそれは、始められたただけであって、完成されたわけではない。

新生の変化があまりに大きいので、ある人は罪赦されたときに腐敗性も完全に滅ぼし尽くされたと思ってしまう。

しかしそれは一時停止してただけで、滅ぼされたのではないことにやがて気づく。  
それである人は回心そのものがちがっていたのかと考えるが、そうではない。  
そのように考えるのは罪の二重の性質を知らないから。

# 新生した状態と、まったく完全なきよめの状態の間には ちがいがあ

新生において、罪は敗北し征服されているが、滅ぼされてはいない。  
たましいの城の中には、裏切り者が潜んでいる。  
病気は緩和されているが、根治されていない。  
有害な植物の芽は摘まれ、枝は刈り込まれているが、根は引き抜かれていない。  
腐敗性は停止され抑制され、抑圧されているが、完全に放逐されていない。

腐敗性は支配していないが、存在している。  
霊と肉が敵対しながら混成している。

新生は聖化の始まりであり、全き聖化は、新生のみわざの完成。

全き聖化は、新生のときに植えつけられた聖の要素に敵対するすべての要素を  
たましいから取り去ること。  
ライバルなしに神が支配する、心の完全な更新。

## 聖化は罪の抑圧ではなく、存在の撲滅と破壊

聖霊の力は古い人を死に至らせるのではなく、抑えつけるのだと教える人がある。しかし新約聖書が生来の罪に関して用いている語はそれよりはるかに強い語。

抑圧を表すギリシャ語も聖書中にたくさんある。

しかしそれらはどれも生来の罪に関して用いられてはいない。

生来の罪に関して用いられているのは、除き、きよめることを表す語。

「きよめる」「純化する」「殺す」「十字架につける」「滅ぼす」など。

それは存在の撲滅と、破壊を表すことば。

「あなたがたを全く聖なるものとしてくださいますように」というパウロの祈り

この「全く」は全部と完全の両方を複合する最も強い語。

## 新生と全き聖化の正確な違い

一方には不潔が残っているが、他方には残っていない、ということ。

全き聖化は申請によってはじめられた浄化と刷新のみわざの完成。